

但馬の農産物ブランドを土づくりから支える完熟発酵堆肥 (朝来市土づくりセンター)

兵庫県朝来市 2023年11月時点
牛ふん 鶏ふん 粉状 広域流通

○ 朝来市土づくりセンターは、地元の牛ふん、鶏ふん、もみ殻を徹底した温度管理下で発酵(60日以上)させた完熟堆肥を製造することにより、地域での資源循環の拠点となっている。

■国内資源の種類 ■肥料の種類・肥料名称

・牛ふん ・鶏ふん
・もみ殻

・種類：特殊肥料（堆肥）
・肥料名：
小袋(15kg)「ニューあさご有機」
フレコンバッグ、バラ

■作物

・水稻
・野菜
(岩津ねぎ、
にんにく等)
・果樹
(朝倉さんしょ等)
・花き

■主要成分の含有量・特徴等

N	P ₂ O ₅	K ₂ O	C/N比	水分
1.7	2.1	2.5	12.9	43.9

(N、P₂O₅、K₂O:現物中%)

・徹底した温度管理により
病原菌・雑草種子が死滅
・60日以上かけた完熟発酵堆肥



■取組の経緯・内容・成果

取組の経緯

・平成17年度に朝来市が「自然環境との調和を目指す農業を土づくりによって推進する拠点」として土づくりセンターを建設し、第3セクター（株式会社あさご有機）に運営を委託。

取組の内容

・市内の畜産農家から専用トラックで家畜排せつ物を収集し、但馬牛の繁殖・肥育農家で発生した牛ふんをベースに、鶏ふん、もみ殻を混合。
縦型スクリー式攪拌機を備えた堆肥化処理施設で、徹底した温度管理の下、60日以上かけて発酵・熟成。
・利用農家の要望に応じ、栽培履歴や収量を確認し、堆肥のコーディネートを行うなど、地域の農畜産物の生産を支える資源循環の拠点となっている。
・希望に応じ、マニユアスプレッダーで堆肥散布を実施（令和4年度約57ha）

成果

・兵庫県堆きゅう肥共励会で知事賞を3度受賞（平成25、令和4、令和5年度）。
・令和3年度の岩津ねぎ品評会では、上位1～6位が当堆肥使用の生産者。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ

資源供給者

畜産農家
(朝来市)

牛ふん75%
鶏ふん15%

肥料製造者

株式会社
あさご有機
(兵庫県朝来市)

一部散布

肥料利用者

市内外の
耕種農家

連携

情報発信

耕種農家
(朝来市他)

もみ殻等10%



製品

朝来市

・土づくりセンター設置者
・施設、備品の維持管理
・土づくり事業の推進
・市民の堆肥購入に補助金交付

■今後の課題・取組

・限られた人数で運営しており、人手が必要な作業などもあるため、安定した人材確保が重要。
・施設の老朽化や効率的な作業に対応するため、施設の改修を検討。



発酵槽での攪拌・発酵



発酵槽での発酵促進



堆肥散布